

# 「ヒヤリ・ハット」体験事例

平成27年8月～平成28年7月

分類 : 収集運搬  
事故の型 : 転落・転倒

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策
1	取引先現場	積み込み作業中	油付きコンガラ入りフレコンを積み込みしている時、コンテナの底に油が付着していたところで足を滑らせて転倒しそうになった。	事前の確認、油污れ発見時は拭き取りか、吸着すべり止め用に砂等の散布措置を行うようにする。
2	取引先現場	コンテナ引上げ作業中	コンテナの後方が正確にロックされていなかったためコンテナを引上げる時に荷物が落下しそうになった。	コンテナ本体の確認実施。ゆるみ等不備があれば即修理手配をするようにする。
3	取引先現場	廃棄物収集作業中	古い民家だったため床の木が腐っていて足が床に踏み込みそうになった。	床などが腐っていそうな場所があれば、足場板など養生をしてから作業する。
4	取引先	ゴミ収集中	油等で足がすべり、怪我をしそうになった。	あわてずに足元を確認しながら仕事をする。
5	ゴミステーション	ゴミ収集時	収集時に、パッカー車から降車時に足を踏み外した。	降車時は足元に注意する。
7	工場内	シート掛け作業中	シートのゴムが足に絡まり転倒しそうになった。	足元の確認を徹底する。
8	ゴミステーション	ゴミ収集時	パッカー車から降車する時、ステップを踏み外して転倒しかけた。	足元を確認してから降車する。

分類 : 収集運搬  
事故の型 : 衝突・接触

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策
1	一般道路	ゴミ収集中	反対車線側にもゴミ袋があったため取りに行こうしたら後続車・対向車が視界に入り立ち止まった。	反対車線にゴミがある場合には、慌てず前後・左右の安全を確認し収集する。
2	一般道路	走行中	前車両が急にブレーキを掛けウイカーも出さないので、右折したため衝突しそうになった。	十分な車間距離を取って走行する。
3	回収先	車を停車中	前向きに駐車していた車が、こちらに気付かずバックしてきたので衝突しそうになった。	徐行運転の徹底。
4	ゴミステーション	ゴミ収集中	車両後部の観音扉が開いてきて顔をぶつけそうになった。	扉は必ずロックするようにする。
5	一般道路	走行中	リヤゲートのパネルが一部、強風ではがれて飛びそうになった。	日常から点検を行い、さびてきている部分には注意する。
6	一般道路	ゴミ収集中	積み込み作業中パッカー車の影から人がでてきたので接触しそうになった。	人が通るスペースがないように駐車し、周りをしっかりと確認する。

7	一般道交差点内	運搬中	交差点を左折時、対向車線の車が右折して来て自車の前方に車線をこえて割り込んだため、衝突しそうになった。	かもしれない運転(前方に割り込んでくるかもしれない)を行い防衛運転に努める。
8	住宅地	住宅地走行中	建物の影から子供が飛び出してきた。	かもしれない運転を心がける。
9	取引先駐車場	方向転換時	取引先駐車場で車を方向転換時、子供が車の前に飛び出してきたので急ブレーキを踏んだ。	目視の確認、誘導員を配置する。
10	取引先駐車場	取引先の駐車場から一般道路に出ようとした時	走行車線にウインカーを出して駐車場に入ってこようとしている車があったので駐車場から出ようとしたら、その車はそのまま直進していった。	早とちりせず、安全運転を心がける。

分類 : 収集運搬  
事故の型 : 飛来・落下

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策
1	取引先現場	コンテナ引上げ作業中	設置していたコンテナを引き上げる時に後方ロックがしっかりと入っていなかったため、中身が飛び出しそうになった。	設置時、引き上げ時、コンテナ本体の点検。腐食、穴あき、扉の変形、建込状況、ロックハンドルは硬くないか確認する。
2	一般道路	走行中	風圧により荷台のシートのゴムが切れかけていたので積荷が落ちそうになり、荷の飛散が気になり運転に集中できず停止し補修した。	車両点検時にロープ・シート等の用具の点検を十分に行う。

分類 : 収集運搬  
事故の型 : その他

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策
1	取引先現場	シート掛け作業中	二重袋の上に乗って作業をしていたら二重袋の口が開いて中身が飛散しそうになった。	二重袋入りとは言え飛散性アスベストは綿状品が入っているので、引っ掛けて破れる恐れがあるので必要以上に荷重をかけないようにする。
2	取引先現場	積み込み作業中	10tコンテナにガラスの波板を積んでその上に乗って作業していたら、安全靴の中にガラスの破片が入って足を切りそうになった。	ガラス波板、FRP波板共に滑りやすいため取扱いに注意する。また、ガラス波板は網入りであるが角が欠けやすく鋭利であるため注意する。
3	坂道	ゴミ収集中	サイドブレーキがあまく車が下がってきた。	坂道に止める時には輪止をする。
4	取引先	車を停車した時	サイドブレーキの効きがあまかったため、車が下がってきた。	サイドブレーキのブレーキパットの交換。
5	会社駐車場	積み込み作業中	会社内ゴミ置き場にて、生ゴミ収集中にミゾに足を取られて転倒しかけた。	足元の確認を徹底する。

分類 : 中間処理  
 事故の型 : 転落・転倒

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策
1	プラント内	重機で木材を積み込み作業中	重機に乗ろうとした時に作業服の上着のポケットがレバーにひっかかり落ちかけた。	ポケットのボタンをとめる様にする。その他引っ掛かる様な物は身につけないようにする。
2	会社内中間処理施設	積み込み作業中	コンクリートの土間にユンボを置いて廃プラスチック類をバケツで掬おうとしていた時、掬う量が多すぎて、キャタピラーが偏り、ユンボがピットへ転落しそうになった。	バケツ7割程度の量で積み込みする。また、ユンボはピットの際に置くのではなくゆとりを持ってユンボを置く。
3	プラント内	点検作業中	高い所での点検をしている時に安全帯をかけそくなって落ちそうになった。	あわてずしっかりと安全帯をつける。
4	取引先現場	積み込み作業中	廃材を乗せているコンテナにシートをかけようと積み荷の上に乗リシートを広げた時、足を滑らせ落下した。	出来る限り地面からシートをかけるようにし積み荷には乗らない。コンテナの端には足を置かない。
5	プラント内	脚立を使用し高所に上がろうとした時	脚立使用中、脚立が不安定になり、転落しそうになった。	脚立が開閉しないように開き止め金具を確認し、天盤に乗っての作業は行わない。2人で作業を行い、1人は脚立を固定する。
6	破碎施設内通路及び階段	落下物を拾おうとして、階段を降りていた時	通路におちていたガレキで転倒しそうになったが、ロープを掴み転倒せずにすんだ。	機械よりはじかれた小さながれき等の清掃をし、通路に転倒の原因となるようなものは置かない。
7	中間処理施設	重機から降車時	足元に木くずが転がっていて踏みそうになった。	降りる際は基本動作を怠らないようにする。
8	工場内	一輪車で作業中	フレコンを積み込み中、くぼみにタイヤがはまりバランスを崩した。	通行時にくぼみや、障害物がないか確認する。また、くぼみがある場合には補修してもらう。

分類 : 中間処理  
 事故の型 : 衝突・接触

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策
1	工場内	バック走行時	後ろに人がいたのに気がつかないで接触した。バック走行なのでスピードが出ていなかったため大事にはいかなかった。	バック走行の際には必ず周りを確認し、十分に気をつけて行う。また、誘導員がいる場合には誘導員の指示に従い、十分に気をつけて行う。
2	プラント内	積み込み作業中	フォークリフトで前方への作業に集中していた為、後方へ下がる時、人と接触しそうになった。	操作者は、周囲の確認、後方に下がる時には、必ず目視。周囲の人も、機械、重機で作業を行っている場所には近づかない。
3	工場内	分別作業中	混廃を分別し振り返ったら、油圧ショベルがフレコンバックを吊り上げていて、頭にぶつかりそうになった。	周囲を確認し、危険な場所を予測するようにする。
4	工場内	ショベルカーでかき上げ作業中	ショベルカーでかき上げ作業中、死角に人がいて接触しそうになった。	周りの確認を徹底的に行い、周りの人にも作業場所には近づかないように注意する。

分類：中間処理  
 事故の型：飛来・落下

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策
1	現場内	荷下し時	プレキャストL型擁壁を吊上げた時、ワイヤーが千切れて、吊荷が落下した。	重量に適したワイヤーを使用し、吊金具を使用する。ワイヤーの点検は怠らない。また、吊荷の下には絶対に入らない。
2	工場内	荷役作業中	コンテナの影から作業員が出てきて、操作中のバックホーで挟みこんでいた荷が落下しそうになった。	荷役作業中、コンテナ等の影から作業員が出てくる可能性のある場所では、操作前に確認。その周囲には、立ち入らないように表示周知を行う。
3	工場内	荷下ろしの写真を撮影中	混合廃棄物の中に入っていたガラスくずが荷下し中にはねて当たりそうになった。	混合廃棄物にはガラスくずが混ざらないように配慮。安全な場所で撮影するようにする。
3	工場内	油圧ショベルで、ゴミを分別中	混廃の中に入っていたパイプをショベルで挟んだ時に割れて破片が飛散した。	ゴミをしっかり確認し丁寧に作業する。

分類：中間処理  
 事故の型：挟まれ・巻き込まれ

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策
1	工場内	玉掛け作業中	フックとフレコンバックのベルトの間に指が挟まった。幸い、オペレーターががすぐに気づき、怪我にはならなかった。	ベルトを持つ位置に十分注意し、荷物が多いからと言って急がず作業する。オペレーターとの合図を確実にする。
2	工場内	高速カッターで作業中	高速カッターでロープを切っている時に、切れたロープの糸が刃物に絡まって、手を巻き込みそうになった。	ロープ又は、衣類等は高速カッターを使用せずハサミやカッターを使用する。

分類：中間処理  
 事故の型：その他

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策
1	会社施設内	点検作業中	スイッチの押し間違いで機械の誤作動が起きた。	点検前にブレーカーを落としているかを、しっかり確認し、スイッチの操作等は、押す前に間違えていないか確認する。
2	工場内	油圧ショベル運転中	ユニック車から廃木材を油圧ショベルでおろす際に横側のあおりが開いていなかった為、木材と一緒につかんでしまった。	手前のあおりが開いていたので反対のあおりもひらいていると思いこんだ。操作を始める前には必ず目視で確認する。
4	プラント内	点検・清掃中	破碎機内点検の為ブレーカーを遮断し、内側の清掃を行っていた時、制御盤に「点検中」の注意書きの札ををかけ忘れたため、別の者が点検中と知らずブレーカーを入れてしまった。	今回はブレーカーを入れただけでしたがスイッチが入っていれば大事故につながっていた。今後は注意書きの徹底、朝礼時の伝達、制御盤の施錠を行うように決定した。